

掘りだそう、自然の力。

Calbee

TSE code : 2229
カルビー株式会社
2025.8.1

カルビーグループ決算説明会

2026年3月期 第1四半期

2025年4月1日～2025年6月30日



決算エグゼクティブサマリ

■ 第1四半期決算は、国内事業が堅調で売上高・営業利益ともに計画達成

- ・ 対前年では新工場の減価償却費等の費用増と前年同期の高い海外営業利益の反動減で減益

売上高 822億円（対前年+46億円、対計画+7億円）

営業利益 53億円（対前年△24億円、対計画+1億円）

EBITDA 94億円（対前年△16億円、対計画△0億円）

■ 国内コア事業では価格・規格改定を行いながら販売数量を伸長

- ・ マーケティング改革の推進と組織連携の強化が奏功
- ・ 新工場「せとうち広島工場」の立ち上げとDX施策としてのC-BOSS構築は計画通り進行

■ 海外事業は、売上高は現地通貨ベースで二桁成長を実現 営業利益では、インドネシア、英国の減益が響く 海外全体で通期計画達成に向けてリカバリー策の実行に取り組む

2026年3月期第1四半期業績 サマリ

握りだそう、自然の力。

Calbee

(億円)	2025年3月期 第1四半期 実績	2026年3月期 第1四半期 実績	伸び率	2026年3月期 第1四半期 計画	計画比
売上高	777	822	+5.9%	815	100.9%
国内	581	618	+6.4%	599	103.2%
海外	196	205	+4.4%	216	94.6%
営業利益	77	53	△31.0%	52	101.8%
営業利益率	9.9%	6.4%	△3.4pts	6.4%	+0.1pts
国内	61	45	△26.8%	41	108.7%
海外	15	8	△47.7%	11	75.4%
経常利益	93	53	△43.4%	53	98.8%
為替差損益	14	△3	△117.5%	0	-
当期純利益※	71	35	△49.9%	36	98.5%
EBITDA	110	94	△14.2%	94	99.8%
EBITDA率	14.1%	11.5%	△2.7pts	11.6%	△0.1pts
国内	85	77	△10.2%	74	103.6%
海外	24	18	△27.8%	21	85.9%

※親会社株主に帰属する当期純利益

<対前年>

- 売上高：国内・海外ともに販売数量を伸長
- 営業利益：せとうち広島工場稼働に伴う減価償却費増、販促費の四半期計上基準変更に加えて、インドネシア・英国等の原価悪化で減益
- 当期純利益：前年同期の為替差益や税制優遇の反動

<対計画>

- 国内は堅調モメンタムを維持して計画以上の業績を達成し、海外の未達をカバー

【参考】：月末為替レート (円/\$)

	前期末	6月末	計画レート
2025年3月期	151.41	161.07	-
2026年3月期	149.52	144.81	152.0

2026年3月期第1四半期業績 EBITDA分析

2025年3月期
第1四半期
EBITDA

110

(億円)

増収効果

+29

コスト高騰（原材料・動力・物流費）△18

販売費用・投資 △11

新規・基盤投資 +0

人財投資 △3

その他 △6

【国内】
△9

【海外】 △7

2026年3月期
第1四半期
EBITDA

94

【補足】

- 増収効果：
数量伸長（+8億円）、単価改善効果*1（+21億円）
*1 改定効果、SKU別PL活用効果（S&OP）、MIX改善等
- コスト高騰：
輸入原料（△4億円）、食油（△4億円）、
包材（△2億円）、動力費（△2億円）、
物流費（△3億円）
- 販売費用・投資：
積極的なマーケティング・営業活動に伴う増加
販促費の四半期計上基準変更の影響*2（△4億円）
*2 通期業績への影響なし
- その他：
生産性向上を、新工場稼働による固定資産税や
消耗修繕費等の費用増が上回る

2026年3月期第1四半期業績 国内事業

握りだそう、自然の力。

Calbee

(億円)	2026年3月期第1四半期		
		前年同期比	
国内売上高	618	+37	+6.4%
スナック	574	+42	+7.9%
ポテトチップス	254	+17	+7.2%
じゃがりこ	126	+13	+11.9%
その他スナック	195	+12	+6.4%
シリアル	82	+4	+5.4%
その他（アグリ・食と健康・役務提供）	36	+2	+5.1%
リベート等控除	△74	△11	－
国内営業利益	45	△16	△26.8%
営業利益率	7.3%	△3.3pts	－
EBITDA	77	△9	△10.2%
EBITDA率	12.4%	△2.3pts	－
土産用製品	43	+4	+9.7%

※「スナック」「シリアル」「その他（アグリ・食と健康・役務提供）」の売上高はリベート等控除前の金額を記載しています。

ポテトチップス50周年、じゃがりこ30周年を迎える節目の年に好スタートを切る



■スナック

- 需要は堅調で全てのカテゴリーで増収
- マーケティング効果と組織力で数量伸長を実現
- 土産用製品は好調な旅行需要を背景に伸長継続

■シリアル

- 企画製品を始めとする継続的なマーケティングや営業の店頭活動を通じたお客様との接点拡大が奏功
- 朝食市場の新規顧客の獲得に努め、シリアル市場を牽引

■その他

- パーソナルフードプログラム「Body Granola」が伸長

2026年3月期第1四半期業績 国内事業

握りだそう、自然の力。

Calbee

スナック (売上高 +8%)

■ ポテトチップス：(数量 +6%)

- 「堅あげポテト」や「コンソメパンチ」等の定番品は堅調
- お客様の濃厚な味を求めるニーズに対応したサブブランド「ポテトチップス濃厚キング」や、地域に根差した製品の拡大も貢献



サブブランド

「ポテトチップス濃厚キング」



新発売の地域限定品

■ じゃがりこ：(数量 +3%)

- 継続する高い需要に対応して稼働を調整し、営業活動を強化したことで、定番品を中心に販売伸長



「じゃがりこ サラダ」

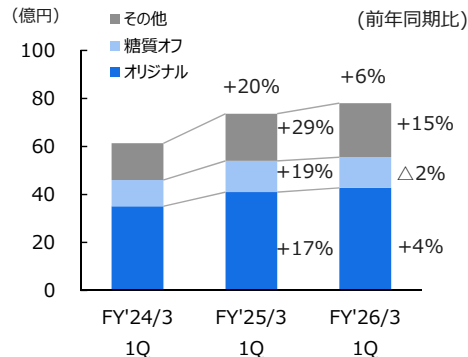
■ その他スナック：

- 小麦系、コーン・豆系スナックいずれも増収
- マーケティングを刷新した、成型ポテトチップス「クリスプ」や「miino」が好調で二桁成長

シリアル (売上高 +5%)

- シリアル市場シェアを拡大
(シェア：38% (前年同期比+1.7pts))
- オリジナルや個別嗜好に対応した「マイグラ」といった定番品に加えて味替品も好調
- 4月に発売した期間限定の企画品は新規顧客の獲得に貢献

シリアル売上高 (国内消費)



「マイグラ」ブランド

■ コミュニケーション方針の見直し：

販売伸長を支えるため、ブランド横断、立体的メディア戦略（※）を実施し、売場や広告の先にいるお客様の心を捉えるマーケティングを通じて、話題同士の相乗効果を生み出す

- ブランド横断による最大効果の創出

① リテールを軸にした横断

② 話題最大化のための横断



若年層に人気のアイドルグループ「超ときめき♡宣伝部」を起用し、SNS上で複数ブランドを紹介

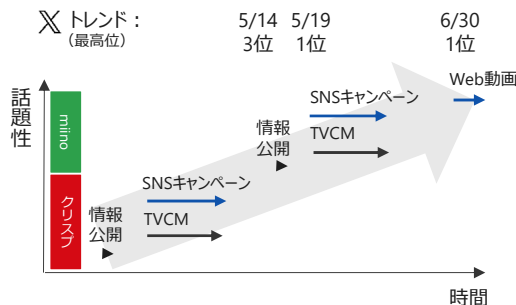
STARTO ENTERTAINMENT

Snow Man



人気アイドルグループ「Snow Man」を複数ブランドで起用し、CM・動画を配信

- SNS × TVCM の効果的活用による戦略的・継続的な話題性の向上



- 感性に訴え印象に残るコンテンツで購買意欲を繰り返し喚起（再現率の向上）



カルビーHP CM・動画サイト

<https://www.calbee.co.jp/campaign/#cm>

（※）立体的メディア戦略：複数のメディアを効果的に組み合わせることで、消費者による話題の発信・拡散を促すことで、メディア間の相乗効果を生み出し、話題性を多方面に広げることを目指すマーケティング戦略

2026年3月期第1四半期業績 海外事業

握りだそう、自然の力。

Calbee

(億円)	2026年3月期第1四半期			
		前年同期比		為替影響除く 実質伸び率
海外売上高 ※1	205	+9	+4.4%	+10.9%
欧米	111	+1	+1.4%	+7.0%
北米	69	△3	△4.0%	+3.5%
アジア・オセアニア ※2	116	+7	+6.4%	+13.9%
中華圏 ※2	38	+2	+6.1%	+13.8%
リポート等控除	△22	+0	—	—
海外営業利益	8.1	△7.4	△47.7%	—
営業利益率	4.0%	△3.9pts	—	—
欧米	3.2	△2.1	△40.3%	—
北米	3.8	+0.7	+21.8%	—
アジア・オセアニア	4.9	△5.3	△51.6%	—
中華圏	2.7	△0.3	△10.9%	—
EBITDA	17.7	△6.8	△27.8%	—
EBITDA率	8.6%	△3.9pts	—	—
欧米	10.2	△1.5	△12.9%	—
北米	7.9	+0.9	+12.8%	—
アジア・オセアニア	7.4	△5.3	△41.6%	—
中華圏	3.4	△0.3	△8.4%	—

現地通貨ベースではすべての地域で増収

■ 欧米

- ・ 北米、英国ともに現地通貨ベースで増収
- ・ 既存ブランドや日本発ブランドが堅調継続
- ・ 生産性低下と厳しいコスト環境で英国が減益

■ アジア・オセアニア

- ・ 中華圏や豪州/ニュージーランドが増収を牽引
- ・ 認知拡大のための販売投資の増加や原価悪化で減益

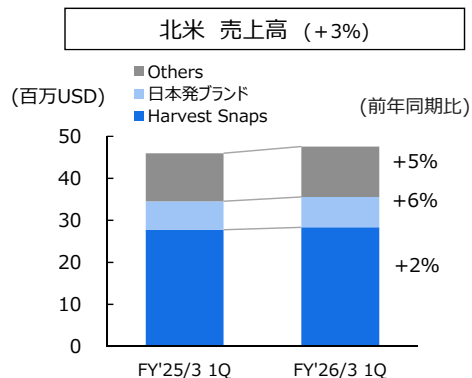
※1 地域別の売上高はリポート等控除前の金額を記載しています。

※2 2026年3月期から中華圏のリポート等控除前売上高の計上方法を変更したことに合わせて前年同期の数値を補正しています。

欧米

■ 北米：

- 「Harvest Snaps」は重点小売チェーンを中心に伸長
- 派生ブランドの「Harvest Snaps Kids」の好調も貢献
- 日本発ブランドは前年下期より現地生産をスタートしたポテトチップスが伸長
- 今後も日本発ブランドの内製化を拡大
- 増収と生産性改善で増益



現地生産の新製品
「ASIAN CHIPS」



派生ブランド
「Harvest Snaps Kids」

■ 英国：

- ポテトチップスラインを増設した「Seabrook」ブランドと日本発ブランドは、全国小売チェーンの販売拡大で二桁伸長
- 「Seabrook」のスナックサブブランドも伸長
- 営業利益は生産効率低下による労務費の上昇やばれいしょ等のコスト高騰が増収効果を相殺
- 下期に向けて、生産ポートフォリオの改善や生産性向上に取り組む

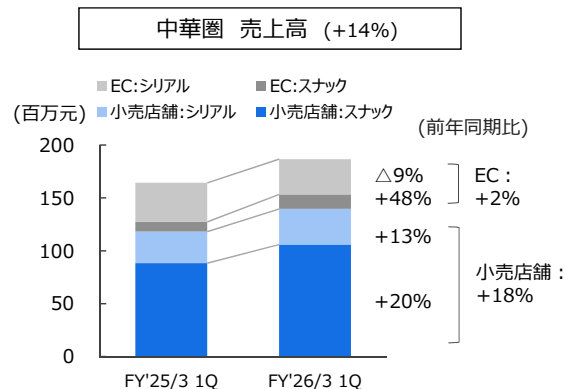


スナックサブブランド
「Seabrook WAFFLE BITES」

アジア・オセアニア

■ 中華圏：

- 中国国内や周辺国からの「Jagabee」の供給を拡大し、大手小売店舗を中心に販売を拡大
- 現地で人気の日本のIP活用により、新規顧客獲得に貢献
- 引き続き、現地OEM生産品の供給拡大や現地の嗜好に合わせた製品展開、重点地域の営業人員増強に取り組む



人気キャラクター「ちかわ」とのコラボレーション

■ インドネシア：

- 売上高は、6月に新ラインを稼働したポテトチップスや「GuriBee」が伸長
- 合併パートナーの配荷力を活かしたチャネルへの取り組み強化とマーケティング投資の充実
- 営業利益は、販売費用の増加や製品ポートフォリオ変化による生産効率低下に加えて、原材料の悪化が影響
- 下期に向けて、販売拡大およびコストリダクションへのアクションを推進



「Japota」のプロモーション

参考資料

連結損益計算書

握りだそう、自然の力。

Calbee

(百万円)	2026年3月期第1四半期 実績				2026年3月期 計画		
		構成比 (%)	前年同期比 (%)	計画比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	82,234	100.0	+5.9	100.9	345,000	100.0	+7.0
売上総利益	25,912	31.5	△4.2	99.8	114,500	33.2	+4.2
販売管理費	20,616	25.1	+6.4	99.3	84,700	24.6	+4.8
販売費	3,536	4.3	+11.3	89.1	15,200	4.4	+5.4
物流費	6,267	7.6	+7.1	104.8	25,000	7.2	+5.1
人件費	6,487	7.9	+4.4	98.7	26,800	7.8	+3.6
その他経費	4,324	5.3	+4.7	101.7	17,700	5.1	+5.8
営業利益	5,295	6.4	△31.0	101.8	29,800	8.6	+2.5
経常利益	5,283	6.4	△43.4	98.8	30,400	8.8	+1.9
当期純利益※	3,545	4.3	△49.9	98.5	20,500	5.9	△1.8

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

財政状況及びキャッシュフロー

握りだそう、自然の力。

Calbee

(百万円)	2025年3月末	2025年6月末	増減
資産合計	319,169	306,134	△13,034
流動資産	133,837	121,659	△12,178 *1
固定資産	185,331	184,475	△856
負債合計	104,101	95,215	△8,885
流動負債	55,705	46,744	△8,960 *2
固定負債	48,396	48,471	+74
純資産	215,067	210,918	△4,148
Net Cash	20,194	13,635	△6,559
自己資本比率	64.3%	65.7%	+1.4pts

(百万円)	2024年6月末	2025年6月末	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	1,541	9,655	+8,114 *3
投資活動による キャッシュ・フロー	△7,605	△11,677	△4,071
財務活動による キャッシュ・フロー	2,559	△7,267	△9,827

【補足】

*1 流動資産：現金及び預金の減少 △16,601百万円

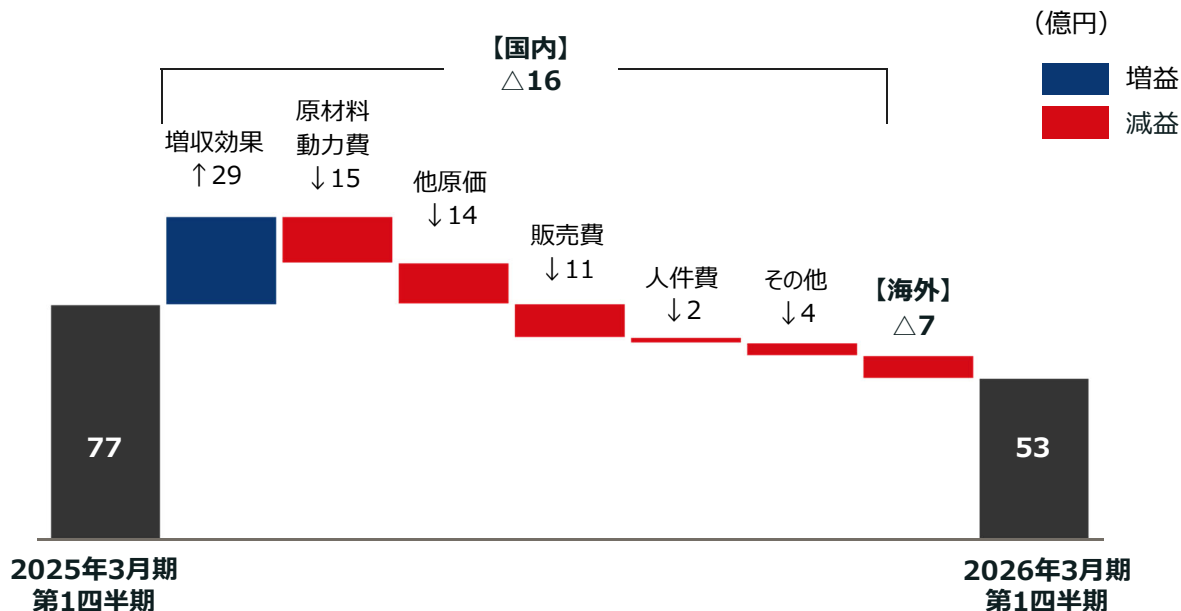
*2 流動負債：賞与引当金の減少 △3,773百万円

*3 営業CF：未収入金の増減額の増加 +3,230百万円
未払金の増減額の増加 +2,437百万円

2026年3月期第1四半期業績 営業利益分析（科目別）

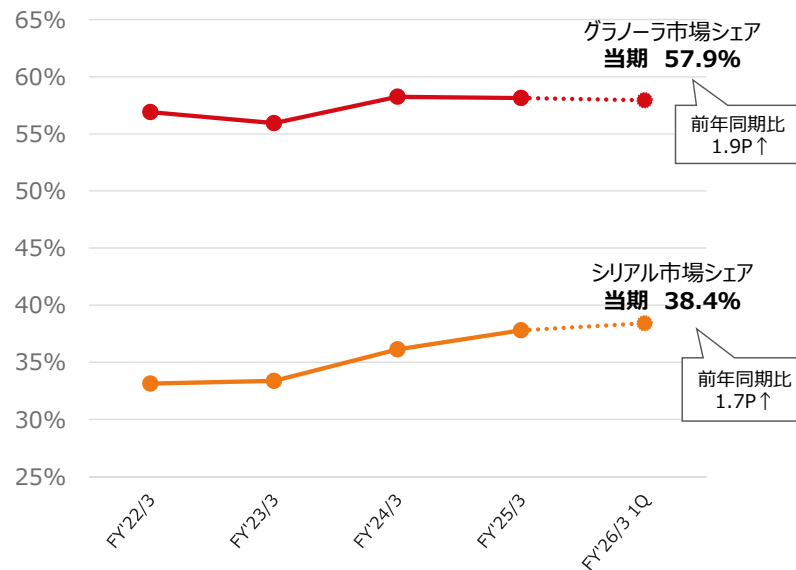
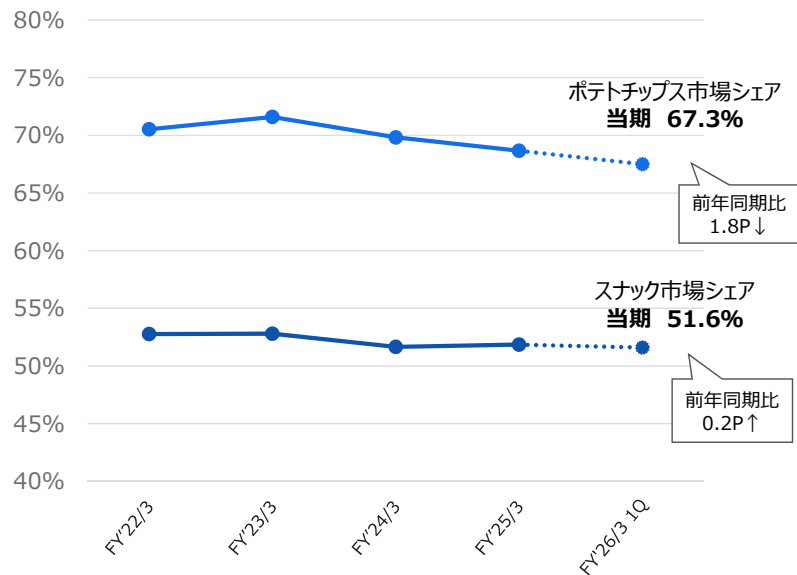
掘りだそう、自然の力。

Calbee



【補足】 原材料・動力費：輸入原材料△4億円、食油△4億円、包材△2億円、動力費△2億円
 他原価：せとうち広島工場稼働に伴う減価償却費等の費用増△9億円、労務費の上昇等
 販売費：販促費の四半期計上基準変更の影響△4億円（通期影響なし）
 その他：物流費△3億円

国内市場シェア



出所：㈱インテージSRI+ 全国全業態 金額ベース

当期累計：2025年4月～2025年6月
前年同期：2024年4月～2024年6月
FY22/3-FY25/3：2021年4月～2025年3月

スナック市場シェア：カルビーとジャパnフritレーの合計
ポテトチップス市場：ポテトチップス(生薄切り・生厚切り)・ポテトシュースト・ケトル合算、非公開PB含む
グラノーラ市場：シリアル市場・グラノーラカテゴリ

価格・規格改定

握りだそう、自然の力。

Calbee

実施時期	2022年 3月期	2023年3月期				2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期			
	2022年 1-2月	2022年 6-7月	2022年 9-10月	2022年 11月	2023年 6月	2023年 8-10月	2024年 6月	2025年 2月	2025年 4月	2025年 6月	2025年 7月	2025年 9月	
対象製品	   	   	   	   	   	   	一部 土産用 製品	   	一部 土産用 製品	   	   	   	   
主な 改定率	内容量: △5% 想定価格: +7-10%	内容量: △10% 想定価格: +10-20%	想定価格: +10-20%	想定価格: +10-20%	想定価格: +3-15%	想定価格: +5-20%	想定価格: +3-10%	内容量: △7-10%	想定価格: +5-19%	想定価格: +4-10%	内容量: △8%	想定価格: +5-10%	

本資料に関するお問い合わせ：

カルビー株式会社 IR

E-mail：2229ir@calbee.co.jp

<https://www.calbee.co.jp/ir/>

- グラフ上の事業年度表記はFY(Fiscal Year)を用いています。FY2026/3(FY'26/3)は2026年3月期を指しており、他の事業年度も同様に表記しております。特にその指定がない表記は、暦年を表しています。
- 本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。